

由比濱

于七里濱

〔書言字考節用集二〕乾坤由比濱相州

〔新編鎌倉志一〕鶴岡八幡宮

大鳥居ヨリ波打際マデ五町アリ、此ノ濱邊東ハ飯島、西ハ靈山崎、其間二十三、四町アリ、由比比、或居、井、濱ト云フ、

〔海道記〕申の斜に湯井の濱に落著ぬ、玄ばらく休みて此所をみれば、數百艘の舟ども、綱をくさりて、大津のうらに似たり、千万宇の宅軒をならべて、大淀のわたりに異らず、御靈の鳥居の前に日をくらし、後若宮大路より宿につきぬ、略

〔太平記二十〕奥州下向勢逢難風事

暮レバ彌ヨ風アラク成テ、一方ニ吹モ定ラザリケレバ、伊豆ノ大島女良ノ湊、カメ河、三浦、由居ノ濱、津々浦々ノ泊ニ、舟ノ吹寄セラレヌハナカリケリ、

〔梅花無盡藏二〕七言絶句移步於由井濱華表之下、中號此濱爲七里、透千度小路、謁鶴岡之八幡宮、中

千度壇連、七里濱、嶸嶸華表、奪龍鱗、回廊六十間、靈地風不鳴、條宗廟神、八幡宮

〔新編相模國風土記稿百五〕鎌倉郡按ズルニ、萬里、由井、七里ノ二濱ヲ以テ一所トシ、カク記セシハ誤ナリ、

〔南方紀傳下〕應永二十年七月三日、關東大風、由井濱鳥居笠木吹落、二十一年三月六日、鎌倉由井

濱大鳥居立、

〔東遊記後編五〕舍利濱

奥州外が濱にホロヅキといふ所有り、其海邊に舍利濱あり、小石濱なるが、其中に舍利石まじれ

陸奥國外ヶ濱